

愛&ハート

■愛の家

- 「まるのわ」がオープンしました!

■あいハート須磨

- 2026年 節分
- 鷹取中学校
『認知症高齢者声かけ訓練』
を終えて

■あいハート離宮前

- 音楽と笑顔あふれる
クリスマス会

◆より良いご縁に恵まれますことを願って

◆カラオケボランティアのご紹介

◆多様な人材とともに
「次世代の福祉のかたち」を目指して

2026 March

281号

愛の家
「工房みさき」
利用者さん
の作品



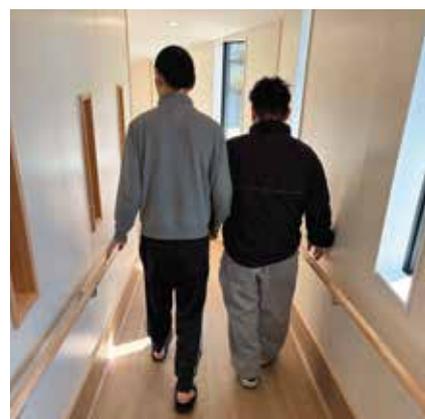
愛の家

● かがやきスタッフ
上野 圭佑

早いもので、今年の4月で3年目となります。とても早く感じた3年間でした。

振り返ると楽しいことや大変なこともありました。ですがその大変さを乗り越えることができたのは、先輩方の助けやこの3年間で培ってきた経験があったからこそだと感じています。

日々の関わりの中で、利用者さん一人ひとりの表情や行動から学ぶことは多く、支援の奥深さや難しさを改めて実感しています。思うようにいかない場面もありますが、その一つひとつが自身の成長につながる



っていると前向きに捉え、日々の支援に向き合っています。さて、先月から新作業棟での日中活動が始まりました。利用者さんと一緒にさまざまな日中活動を行う中で、安心して過ごせる環境づくりや達成感を感じてもらえる関わり大切さを改めて感じています。活動を通して見られる利用者さんの新たな一面や小さな成功体験に触れるたび、支援のやりがいや責任の重さを実感しています。

これからは、これまで以上に周囲への目配りや声かけを意識し、チームの一員としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。また先輩方の支援方法や関わり方から多くを学び、自身の支援の幅を広げていけるよう努力し

ていきたいです。先輩方と連携しながら、新作業棟での日中活動をより良いものにしていけるよう、工夫と努力を重ねていきたいと思っています。まだまだ至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日々の積み重ねを大切に、自分自身も成長し続けられる1年にしたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

● グループホーム主任
山口 真吾

1月23日(金)にBCP(業務継続計画)研修を職員全体研修として実施しました。

はじめに、BCPの目的や基本



方針、災害発生時における組織としての優先業務、職員一人ひとりの役割について概要説明を行い、平常時からの備えの重要性を再確認しました。

その後、平日夜間に大地震が発生したとの想定のもと、管理者不在かつ最小人員配置という厳しい条件を設定し、初動対応訓練を行いました。

参加者はその場で役割分担を決め、情報収集、安否確認、利用者対応、関係機関への連絡などをどのように進めるかを具体的に検討しました。

訓練では、誰が指揮をとるのか、判断に迷った際の優先順位をどうするか、他部門や外部機関とどのよ



うに連携するかなど、実際の現場を想定したからこそ生じる課題が浮き彫りになり、終始緊張感のある時間となりました。

また、限られた人員で業務を継続する難しさや、情報共有の手段が不十分な場合の混乱も体験的に学ぶ機会となりました。

振り返りでは、「どの場面で迷ったのか」「何があればより迅速に判断できたのか」「口頭から準備しておくべきことは何か」といった意見が率直に交わされ、現場ならではの具体的な課題を共有しました。

今回明らかになった改善点を踏まえ、BCPの内容や連絡体制の見直しを進めるとともに、今後も実践的な訓練を継続し、非常時においても利用者の安全を最優先に守ることができ、より具体的に実効性の高い備えと安心できる体制づくりに努めてまいります。

「まるのわ」がオープンしました！

● 事務主任 森口 威

ただいまより、愛の家新作業棟「まるのわ」の竣工式並びに竣工記

念コンサートを開催いたします！
司会の第一声によって、いよいよ「まるのわ」の第一歩が進み出しました！

開幕に先立ち、利用者代表から元気のよい声で、「まるのわ」竣工式の開会宣言があり、会場内も歓声と大きな拍手が響き渡りました。

開会宣言、理事長挨拶の後、NTT西日本大阪吹奏楽団の皆さまに



よる竣工記念アンサンブルコンサートが開催されました。曲目はビートルズや美空ひばり、アニメソングなど幅広い世代が楽しめるものばかりで皆が一つになれた時を過ごすことができました。

大盛り上がりのコンサート終了後には、作業棟内を使用して「謎解きアドベンチャー」を開催しました。

作業棟内に貼られた文字を探し、答えを導き出すというレクリエーションを行い、利用者さんが一生懸命作業棟内に隠された文字を探して楽しそうに歩き回る姿が大変印象に残りました。その日の夜には竣工を記念して新作業棟にて職員忘年会も開催し、1年の労をねぎらい、楽しいひと時を過ごさせていただくこともできました。

思えば4年前、補助金を活用した「みらいの福祉プロジェクト」に2年連続で応募しましたが残念ながら思うような結果には至りませんでした。

それでも新作業棟プロジェクトを立ち上げ、今日まで歩みを止めることなく、多くの方々に支えら

れ進めてきたことで、こうして素晴らしい作業棟が私たちになりました。

関わってくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

完成はゴールでなく、ここからが本当のスタートです。日中活動の場として、また、地域の皆さまとの交流の場として、愛の家新作業棟「まるのわ」のオープンです！

愛の家に関係する全ての地域、関係機関の皆さま、愛の家にお越しの際は是非「まるのわ」にお立ち寄りください！



あいハート須磨

2026年 節分

● 特養介護スタッフ
大谷 拓郎

あいハート須磨で勤続4年目を迎えました大谷拓郎と申します。今年の1月に無事に介護福祉士試験を受験する事が出来て、合格すればようやく一人前の介護士の仲間入りが出来ると思っております。

今回、節分のイベントでは青鬼の役をやらせて頂きました。豆まきの代わりにお手玉を用意し、利用者様に赤鬼・青鬼に対して投げて頂きました。

まずは3Fから開始しました。所属部署が2Fなので、はじめましての利用者様が多い中、それでも私



れからよろしくね」と言われた時は嬉しかったです。

次に自身の所属である2Fへ行きました。利用者様は全員知った仲なので、和気あいあいと思いきや、笑顔の方はもちろん、かなり思いっきり投げられる利用者様もおられました。こちらにも本気で痛がったり、床に倒れ込んだりと鬼役に入り込みました。

利用者様の普段見せない表情や動作、楽しんでいる様子を味わう事が出来て、それだけでも節分イベントは大成功だなと感じました。また、「鬼のパンツ」の曲に合わせて、赤鬼・青鬼で踊りを披露し、



(青鬼) に対し、笑顔または真剣な表情でお手玉を投

げて、イベントを盛り上げて下さいました。写真撮影でお面を取った際、利用者様から「見たことないお兄さんやね、こ

れからよろしくね」と言われた時は嬉しかったです。

頻繁に行える環境作りに取り組み

ことを自身の課題とします。

頻繁に行える環境作りに取り組み

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

フロア全体が和やかになりました。節分の曲に合わせて、普段見られない利用者様の歌う姿や笑顔を見る事も出来ました。

お面を取った後の、「あ、大谷さんやんか」という利用者様の声に、すぐく「ここで働いてて良かったな」と思いました。

行事食もおいしく召し上がられ、節分の雰囲気味わって頂きました。

普段とは違うイベントを行う事の大切さを改めて実感しました。忙しい日々ではありますが、もっといろいろな行事・レクリエーション等を

頻繁に行える環境作りに取り組み

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。

ことを自身の課題とします。



民の方々に、道に迷った認知症のある高齢者等に扮していただき、参加者が声かけの体験をすることで、実際の場面でも落ち着いて対応いただけるような訓練の機会となることを期待しています。

あんしんすこやかセンターでは、「認知症になっても住み慣れたまちで安心して暮らせる地域」を目指し、認知症を自分事として捉え、地域全体で支える体制づくりを進めています。民生委員の皆さまや多世代の住民の方々、多くの高齢者に関わる関係機関の皆さまに賛同して頂き、声かけ訓練等へ参加して頂くことで見守り体制の構築に取り組みんでいます。

現在、日本の高齢者は約3000万人、そのうち約1000万人(約

3人に1人が認知症またはその予備群とされています。2040年には団塊ジュニア世代が高齢期を迎え、高齢者人口はピークに達します。将来、現在の子どもたちが支えきれなくなるほどの規模になることが予測され、今から地域全体で支える仕組みづくりが求められています。

西須磨あんしんすこやかセンターの圏域にも現在約6000人の高齢者が暮らしており、そのうち約2000人が認知症と推計されています。この人数を関係機関だけで支えることは難しく、地域住民との協働が欠かせません。

そのため当センターでは、地域の見守り体制づくりの一環として声かけ訓練を継続して実施しています。これまでに鷹取中学校のほか、西須磨小学校、須磨ノ浦高校、地域住民の皆さまと公園や公民館などで訓練を行ってきました。参加者からは「気づきのポイントが分かった」「困っている人を見かけたら声をかけたい」といった前向きな声が寄せられています。

今後も西須磨あんしんすこやかセンターは声かけ訓練を通じて、地域住民が認知症への理解を深め、多世代のつながりを育み、地域全体の見守り力向上につながる活動を続けていきます。

あいハート離宮前

音楽と笑顔あふれるクリスマス会

● 介護スタッフ 荒瀬 紗矢香

街中のイルミネーションに負けないくらい、あいハート離宮前でも大きなクリスマスツリーが輝き、ご入居者様の目を楽しませてくれます。

始まりは、職員たちによるツリーの飾り付けからでした。「どの配置が一番綺麗に見えるか」と試行錯誤しながら一つひとつ丁寧にオーナメントを飾り、エントランスにはキラキラと輝く大きなクリスマスツリーが完成。

イベント当日は、お招きしたボランティアグループ「Pure Time(ピュアタイム)」の方々によるハンドベル演奏で、清らかで澄み渡る音色が会場全体を包み込み



ました。さらにボランティアの方の美声に乗せて、誰もが口ずさめる懐かしの名曲を披露していただきました。知っているメロディーが流れると、ご入居者様の皆様も自然と口ずさまれ会場は一体となって歌声に包まれました。音楽が持つ「記憶を呼び起こし、心を繋ぐ力」を改めて実感する一体感に満ちた感動的なひとときになりました。

音楽の余韻に浸りながら行われたティータイムでは、特別にご用意した神戸の名店のケーキが登場。見た目も華やかなスイーツに、一口運ぶごとに「美味しい」と笑顔であふれていました。

そしてイベントのフィナーレを飾ったのは、職員扮するサンタクロースのサプライズ登場です。大きな袋を抱えたサンタクロースとトナ

カイが現れると、一人ひとりに手渡しでクリスマスプレゼントが贈呈され、記念撮影のカメラを向けられた皆様の笑顔は最高の思い出となりました。

音楽と笑顔が繋いだこの温かな時間は、私たちにとって何よりのクリスマスプレゼントとなりました。来年もまた、皆様と一緒に新しい思い出を積み重ねていけることを心より楽しみにしております。

準備に関わった職員の方々と当日参加いただいたボランティアの方々、そして主役である皆様の笑顔が一つに繋がった特別な1日になったと感じています。

冬の寒さが本格的になってきましたが、あいハート離宮前ではその寒さも吹き飛ばすような、温もりあふれるクリスマス行事が開催できたとおもいます。



より良いご縁に 恵まれますことを 願って



◆あいハート離宮前施設長
古崎 徹

政府主導の「働き方改革」により、ワークライフバランスや働き方の多様化に関心が集まるようになりましたが、このような時は働き方だけではなく、退職代行業に象徴されるような退職や就職活動にまで変化をもたらしています。

就職では人材紹介や派遣会社が急速に活動の場を拡大しています。希望条件を伝えておけば働きながら条件に合った転職先が探せることや、個人の活動領域では得られないマッチングが成立するなどのメリットやタイムパフォーマンスが時代のニーズに合致して、今やテレビや動画配信サービス、SNSで目にしない日がないほど、かつての消費者金融を彷彿させるまでにCMは過熱し、スキルアップやキャリアアップよりも転

職すれば何か良いことがあるように煽るだけのCMもあり憂いでいます。

介護業界では少子高齢化によって人手不足がますます深刻になり、国が定める職員配置基準を遵守するために紹介会社を頼らざるを得ないケースが増えて経営が圧迫され、結果的に税金や保険料を原資とする社会保障費が紹介会社へ流れる割合が膨張しており有識者で構成される介護保険制度の審議会でも問題として扱われましたので、あとは利権などとは無縁の政治が積極介入するものと期待しています。

時に1人当たり100万円を超える紹介料ですが、背に腹は代えられないとはいえ、元は職員やご入居者様のために使える大切な財源ですから自ずと採用のハードルは高くなり、直接の応募であれば採用したかったと嘆惜の思いで不採用とするケースも出てまいります。

また、職員の離職理由は様々で一概には言えませんが、紹介会社への依存度が高い企業はエンゲージメントの問題を抱えてい

るかもしれないというリスクや、紹介会社は民間の営利企業であり求職者に最も相応しい事業所がすぐそこにあっても紹介料の契約がなければ紹介しないという事情を求職者には知っていただきたいと思えます。

当ホームにおきまして、紹介によって採用した優秀な人材が活躍しているという事例がありますので、紹介そのものを否定するものではありませんが、このような長所・短所を知ったうえで紹介会社は利用いただきたいと考えています。

以上のような事情は聡明なメディアはとくに承知していますが、今や紹介会社はこの上なく貴重なスポンサー企業ですから取り上げることはありません。この場をお借りして私の発信がこのような問題に一石を投じることになればと願っております。



カラオケボランティアのご紹介

NTT労働退職者の会より、昨年7月から新たに2名の方がカラオケボランティアとして参加してくださっています。月2回、午後の2時間程度、特養3階フロアにて活動を行い、ご入居者の皆さまに楽しいひとときを提供していただいています。

カラオケはニンテンドースイッチのソフトと食堂に設置している大型モニターを使用し、利用者の皆さまから寄せられるリクエスト曲の送信をサポートしていただいています。昭和の懐かしい曲が多く選ばれ、ご入居者が歌う歌声に合わせて、他の皆さまも自然と口ずさみながら参加される姿が見られます。モニター前には約10名のご入居者が集いカラオケを楽しめますが、食堂全体が明るい雰囲気になっています。歌を通じて笑顔が生ま



れ、会話が広がり、心地よい交流の時間となっています。こうした活動は、日々の生活に彩りを添え、余暇を楽しんでいただく大切な機会となっています。今後も継続して実施していく予定です。引き続き温かいご協力をよろしく願います。



ご支援をくださった方々

《12月》

後援会費

NTT労働組合西日本本部 様
NTT労働組合ドコモグループ本部
(ドコモソリューションズ西日本分会) 様

寄付金

大西 一只 様
谷川 貴美子 様 (計4件)

《1月》

寄付金

辻様 ご家族 様 (計1件)

ありがとうございます。
ございます。



多様な人材とともに 「次世代の福祉のかたち」を目指して

◆ 事務局長 高岡順二

少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少が続くなか、福祉の現場を取り巻く環境も大きく変化しています。2040年には介護職員が大幅に不足するとの予測もあり、私たちにとって福祉人材の確保は更に重要なテーマとなっています。これまで積み重ねてきたケアの質を守り、安心してご利用していただける施設であり続けるために、次の一歩を考える重要な時期にきていると感じています。

こうした状況の中、当法人が持続的に成長するためには、将来を担う若い世代の確保が何よりも重要です。まず注力すべきは、大卒新卒者の採用強化とインターンシップの充実です。福祉の現場を早期に体験できる機会を広げ、学生が在学中から法人の理念や実践に触れられる環境を整えることで、仕事の意義ややりがいを具体的に伝えていく取り組みを推進していきたいと考えています。

分かりやすいキャリアパスや充実した研修制度を整え、「成長できる職場」であることを丁寧に発信していくことも

大切です。日々の実践や取り組みを積極的に伝え、法人としての魅力や強みを高めていくことが、結果として人材の定着と新たな出会いにつながるものと思います。加えて、国籍を問わず志を共にする多様な人材を迎え入れる取り組みも、これからの大きな柱です。外国人人材の受け入れは、国としても拡大が進められており、私たちにとっても重要な選択肢の一つです。これまでの経験の中では、定着に課題が残る場面もありましたが、そこから学んだことを次の取り組みに生かしていきます。

今後は、介護福祉士養成校との連携をさらに深め、留学生が安心して学び、将来を描ける環境づくりを進めます。奨学金制度や助成金制度の活用やアルバイトの受け入れ、生活面での支援など、入職前から就業後までサポートできる体制を整えていく必要があります。

本誌278号で森本副理事長が触れた「施設職員からの施設長登用」という考え方は、努力が正当に評価される組織

でありたいという思いを表しています。外国人職員の皆さんに対しても、国家資格の取得やキャリアアップの道が開かれていることを明確にし、共に成長していける環境を築いていきたいと思えます。

当法人は、NTT労働組合の先人たちの志を礎とし、多くの寄附やボランティアに支えられ歩んできました。その歴史の中には、常に時代に合わせて変化し続ける姿勢がありました。多様な文化や価値観を持つ仲間を迎え入れることも、未来へ向けた前向きな挑戦です。

異なる価値観が交わり互いに学び合うことで、新しい発想や創意工夫が生まれます。誰もが自分らしく力を発揮し、誇りを持って働ける職場づくりを進めながら、これからの「次世代の福祉のかたち」を築いていきたいと考えています。



「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723

Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

